

## 「一日一日を」

山口県 禅昌寺ぜんしょうじ 住職 町田大智まちだだいち

皆さんは、屋久島をご存知でしょうか。屋久島は、世界遺産に登録されている鹿児島県の南にある島で、豊かな美しい自然が残されており、縄文杉と呼ばれる非常に大きな杉が有名です。

縄文杉を見るには、登山口からおおよそ11キロ、往復10時間の道のりを歩きます。縄文杉は、樹齢約2170年から7200年ともいわれ、高さ25、3m、太さ16、4mの日本最古の杉です。私はこの縄文杉を見て、「古代からの悠久の時の流れ」を感じ、圧倒されました。時の流れは留まることなく駆け抜けていきます。朝も昼も夜も、私たちの思いや願いもあずかり知らないところで流れていくのです。

私たちは日頃、『今日しなくても、また別の日にすればいい』と思い、今日一日の「本当の意味や価値」を見失ってしまいがちです。曹洞宗では、「無意味に過ごし日々の生活を無駄にしていれば、たとえ100年生きたとしても、尊い命を、続いていく命の働きを台無しにする。悔いても取り返しのつかない失敗で悲しむべきものだ」と導かれます。当たり前のことですが、過ぎた時間は取り戻せないのです。

しかしあなたが、今日まで多くの時間を無駄に過ごしたと思うのなら、今日から正せば良いのです。100年の中で、1日でも仏の心をおこし、仏の生き方ができたなら、その時点でこれまでの人生は尊いものであるのです。これまで過ごしてきた時間が今の私たちをつくり、これから流れて行く日々の中での行いが、この先の私たちをつくります。私たちは日々の行いの中で、今日この一日を仏さまの生き方に近づける事が出来るのです。さらにその行いが、家族や友達など、人の為の行いであればいう事はありません。

長い年月を経た縄文杉も、一日一日を生き抜いてきたからこそ今があるように、私たちも、今からでも日々を大切に積み重ねる事ができれば、この先の尊い日々をつくる事が出来るのです。